

# おたる新幹線まちづくり アクションプラン



新小樽(仮称)駅周辺整備イメージ図  
※この図面は、確定したものではありません。

2016年3月26日、津軽海峡を渡り、本州と北海道を結ぶ北海道新幹線新函館北斗駅が開業して今年で5年が経過しました。

2030年度末の新小樽(仮称)駅の開業を機に、新幹線開業効果を最大限に生かすため、官民一体でまちの活力に繋げる「おたる新幹線まちづくりアクションプラン」を策定しました。

が実り、2015年に政府・与党において、5年前倒しとなる2030年度末の開業が決まりました。

## 北海道新幹線の延伸

北海道新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づいて、1973年に国が定めた計画によって整備が行われる「整備新幹線(※1)」に定められました。計画決定から25年後の1998年、北海道新幹線の駅とルート(図1)が公表され、新小樽(仮称)駅を含む9駅の設置が決定、2005年には、新青森→新函館北斗間の工事に着手、11年の歳月をかけて2016年に開業しました。

2012年には、新函館北斗→札幌間の工事に着手、当初、札幌までの延伸は、2036年の予定となっていました。

しかし、北海道や新幹線沿線自治体の早期開業に対する強い要望が示されています。

## 北海道新幹線とは

北海道新幹線の区間は、新青森→札幌間の全長約360kmですが整備計画では、北海道を縦断する札幌→旭川間も基本計画路線に位置付けられています。

現在、新函館北斗→札幌間の約212kmの工事が進められており、途中の駅は、新八雲(仮称)、長万部、俱知安、新小樽(仮称)の4駅が設置されます。

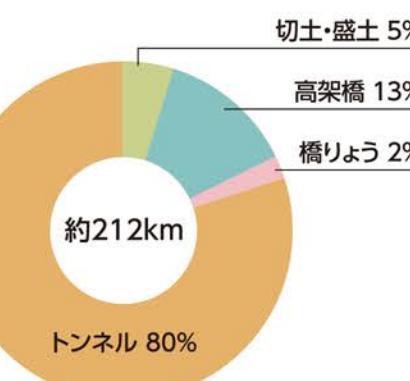


図2 新函館北斗～札幌間の構造物の種類と延長

## 新小樽(仮称)駅

新小樽(仮称)駅は、市内中心部から車で15分ほどの天神2丁目地区(図3)に新たに建設されます。

新小樽(仮称)駅周辺の整備については、2017年に小樽市が「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画」を策定しており、

新幹線が札幌まで延伸すると、小樽→東京間が約5時間、小樽→札幌間が12分、小樽→新函館北斗間が52分、小樽→仙台間が約3時間半で結ばれ、特に道内や東北圏への移動時間が、大幅に削減されることから、観光客やビジネス客の利用が大いに期待されています。

新幹線が札幌まで延伸すると、小樽市や観光地などへの二次交通対策、人を呼び込む魅力ある



図3 新小樽(仮称)駅の建設地

## 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会

まちづくりのためのソフト対策の方向性、取り組みなどが示されました。また、新小樽(仮称)駅周辺地区の周辺は、奥沢水源地や勝納川など自然豊かな環境にあることから、大規模な商業施設等の開発は行わず、自然を生かした土地利用計画が示されています。



図1 北海道新幹線の駅とルート

## おたる新幹線まちづくり アクションプラン

### 〔二次交通対策〕

新小樽(仮称)駅は、市街地から離れた天神地区に建設されることから、新幹線利用者にとって運河や堺町通り周辺の観光地、市内中心部や北後志地域などと利便性の

2018年、新幹線の開業効果をまちの活性化につなげるプランを具体的に検討するため、小樽市と当所が連携して「北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会」を設置しました。協議会では、市が2017年に策定したまちづくり計画を基に、10年後の開業を見据えたアクションプランを策定しました。アクションプランとは、「いつ・誰が・何を・いつまでに行うのか」という具体的な行動計画です。今回策定した「おたる新幹線まちづくりアクションプラン」では、二次交通対策やソフト対策の基本方針とそれに沿った取り組みをまとめています。

- ①主たる区間を時速200km以上で走行できる鉄道であること。
- ②新幹線によって、国民経済の発展、地域の活性化等に資すること。
- ③独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が建設・施設保有し、JRに対し施設を貸し付けること。